

# 交通場面に潜むさまざまな死角 視界の確保と徹底した安全確認を

トラックには運転席からは見えなさまざまな死角があり、主に「①車両の構造上の死角」「②他車がつくる死角」「③道路形状が  
つくる死角」の3つが挙げられます。ドライバーは常に死角を意識した運転に努め、安全確保に取り組んでいきましょう。



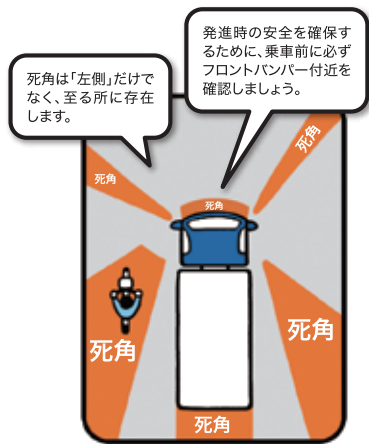
**安全不確認 死角が要因となる  
事故が多発**

**死角を意識し  
安全確認を徹底した運転を**

## ①車両の構造上の死角

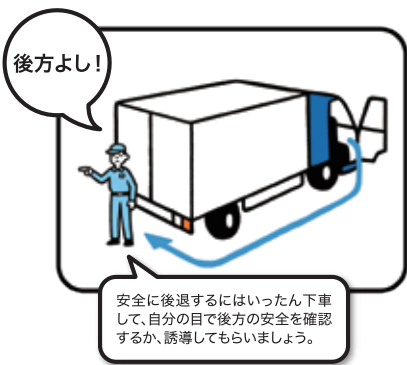
### ■車両「側方」の死角

車両の側方には、サイドミラーに映らない死角があります。特に左側の死角が大きくなり、左折時に車体の小さい自転車や二輪車を見落とすことがあります。左折する際はスピードを落とすとともに、こまめにミラーを見たり目視したりするなど、安全確認を徹底してください。また、トラックは車高が高く前方下部の死角が大きくなるため、小さな子供や高齢者の存在に気づかず発進してしまうこともあります。乗車前にフロントバンパー付近の確認や発進前の前方確認を確実にいきましょう。



### ■車両「後方」の死角

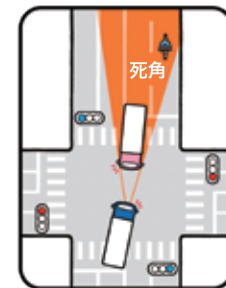
バン型車両の後方は大きな死角となり、運転席からはほとんど見えなくなります。構内や駐車場などで後退する時は、いったん下車して、後方の死角部分に歩行者やフォークリフトがないか、荷物が置かれていないかなどをよく確認してください。誘導員がいる場合は誘導してもらいましょう。なお、バックカメラを使用して後退する場合も過信は禁物です。「自分の目で確認」が基本です！



## ②他車がつくる死角

### ■「対向右折車」がつくる死角

右折時に対向右折車がいると、その後方が死角となり、対向車線の状況が確認しにくい状況になります。特に対向右折車が大型車の場合には、死角が大きくなり死角部分から直進してくる二輪車などを見落とす危険があります。そのため、対向車線の状況が確認しにくい時は、一気に右折するのではなく、徐行して対向車線の状況が見えるところで一時停止し、安全確認をするようにしましょう。

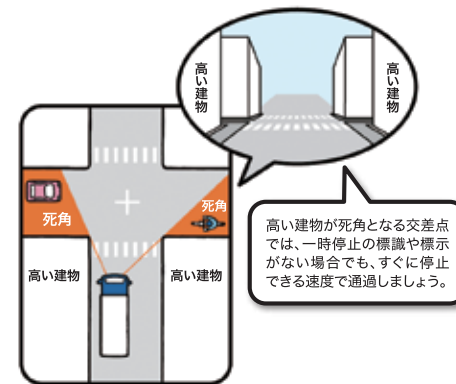


## ③道路形状がつくる死角

### ■「見通しの悪い交差点・カーブ」の死角

見通しの悪い交差点では、高い建物が死角となり接近してくる車両が確認できません。一時停止の標識や標示がある場合は必ずそれを守り、左右の安全確認を徹底してください。標識や標示がない場合でも見通しの悪い交差点では、優先道路を通行している場合を除いて徐行が義務付けられています。安全を確認しながら、すぐに停止できる速度で通過しましょう。

また見通しの悪いカーブでは、カーブの先が死角となるため対向車の発見が遅れやすくなります。カーブの手前で十分に減速するとともに、センターラインをはみ出さないというカーブ走行の基本をしっかり守って運転してください。



**！ 死角を意識した安全運転のポイント**

- 左側の死角は大きいため、左折時は慎重に確認
- 後退時は“自分の目で確認する”ことが基本
- 交差点で対向右折車がいる場合は、徐行して対向車線が見える位置で一時停止し安全確認
- 交差点やカーブ走行時は、徐行・十分な減速で危険を回避

**さまざまな死角を把握し、安全確認を徹底しましょう！**

## 日野自動車は、先進の安全性能で事故を未然に防止

### 〈サイトアラウンドモニターシステム〉

前側方から接近する移動物を監視して出会い頭での注意を喚起。

見通しの悪い交差点などで、前側方から接近してくる車や自転車などの移動物を監視。衝突の可能性が高い場合には警報音でドライバーに注意を促します。右左折時の出会い頭など、より一層の注意を払う場面でのドライバーの安全確認をサポートします。 ※日野プロフィアに標準設定



動画はこちら

※道路状況、車両状態、天候状態およびドライバーの操作状態などによっては、作動しない場合があります。詳しくは取扱説明書をご覧ください。

出典：埼玉県警「くま「死角」カード」、公益社団法人 全日本トラック協会「事業用トラックドライバー研修テキスト9 危険の予測及び回避」「トラックドライバーのための安全運転の基礎知識」